

木材の

低温着火にご注意を!!

通常、木材が発火する温度は 400～460℃ですが、木材に対して発火温度よりも低い熱が長期間加えられると、木材は水分などが蒸発し乾燥、さらに熱分解が進むと炭化していきます。炭化した木材は燃焼しやすいため、通常が発火温度よりも低い 100～280℃程度の加熱で燃え出すことを**低温着火**といいます。

DANGER

こんなところが危ない!!

DANGER

①火力の強いコンロ等と壁との距離が近いところ



②古民家の土間や薪ストーブの煙突周辺の壁や天井



③屋外で使用するガスコンロ等の風除けのために使用する木製ついたて



低温着火による焼損後の木製ついたて



火事とならないための対策

① 火力の強いコンロ等と壁との距離が近い

ラーメン店のスープを作る寸胴鍋の近くの壁など、飲食店等において大火力のコンロがあり壁との距離が近い場合、コンロから発される高温の放射熱がステンレス板などを通じて裏側の木材を炭化させ、火災に至る事例が全国において毎年報告されています。

そのような場所においては、コンロを壁から離す、もしくは壁の裏側に熱の伝導を遮断するための処理を施すなどの対策をして、直接壁裏の木材に熱が伝わらないようにしましょう。

② 古民家の土間や薪ストーブの煙突周辺の壁や天井

古民家の土間や薪ストーブの煙突が壁や天井の木材等と直接接している場合、長期間高温の煙突と接しているうちに木材が乾燥・炭化し、最終的に出火し、周囲の壁や天井に着火、火災に至ることがあります。こちらの場合においても、①と同様に煙突と壁もしくは天井が接する箇所に不燃材を入れて断熱処理を施してください。

③ 屋外で使用するガスコンロ等の風除けのために使用する木製ついたて

地域の祭りやイベント等において、屋外用ガスコンロなど火を使用する器具の風除けのために木製ついたてを置いている場合で、その距離が近すぎる場合は、長期間のうちに木材が乾燥・炭化し、火災となる危険性があります。

火を使用する器具と木製ついたてとの距離を十分に確保する、または風除け用のついたてをアルミ製などの不燃材を使用するなどの対策をしてください。

ご質問などありましたら下記までご連絡ください。

宗像地区消防本部 警防課警防係

TEL 0940-36-2481

FAX 0940-37-0011

e-mail keibou@munakata119.jp